

2025 年度に予定している主な施策

2025 年 9 月 4 日

第一回 IMI アドバイザリーボードでの主な指摘事項	対応の方向
1. 事業にはデータの活用が不可欠。特に、最適化。それに向けた、人材の育成・活用、最先端の研究についての IMI に対して強い期待。	A)IMI の担当部門（データ、最適化）の強化と優秀な人材の確保（概算要求） C) アウトリーチの活性化
2. 生成 AI や量子コンピュータなどの技術の発展が数学に与える影響、および、これらの産業応用の可能性の認識が必要。	A)IMI の担当部門（量子数理、最適化）の強化と優秀な人材の確保（概算要求） B) 学際領域展開ハブ形成プログラムへの提案
3. 数理の博士人材の活用には、当該人材が社会への感度を上げられるよう大学教育を改善すべき。	D) 卓越大学院制度 E) 外部との連携強化、産学連携の推進
4. 中高生へのアウトリーチ活動の好評を受け、中等教育から社会における数学の活用事例を引き続き紹介していくことに期待。	C) アウトリーチの活性化
5.最先端の数学を社会実装するプロセス自体の最適化。	F) リエゾン戦略部門、MfIP

2025 年度に予定している主な組織的取り組みは以下のとおり：

A) IMI の担当部門（データ、量子数理、最適化）の強化と優秀な人材の確保（概算要求）

- ・公的統計オンサイト施設の設置（2025 年 6 月）
- ・共同研究推進拠点「次世代ものづくりイノベーション推進拠点」（住友電装株式会社）の設立（2025 年 10 月～2028 年 9 月、予定）
- ・先端最適化・量子数理研究部門の設立（概算要求中）
- ・国際連携展開部門の設立（概算要求中）

B) 学際領域展開ハブ形成プログラムへの提案

- ・新たな学際領域としての「マス・フォア・ライフ」の提案

C) アウトリーチの活性化

- ・福岡県高校生対象 IMI アウトリーチ 福岡県教育庁との共同運営（対面約 100 名）

(2025 年 12 月 25 日開催予定)

・産業数理統計チュートリアル (2025 年 12 月 11 日・12 日に開催予定)

D) 卓越大学院制度

・マス・フォア・イノベーション関係学府の今後を考えるタスクフォースにおける検討 (2024 年より)

E) 外部との連携強化、産学連携の推進

- ・日 ASEAN 科学技術・イノベーション協働連携事業(NEXUS)若手人材交流コース (3,000 千円)
- ・研究開発と Society5.0 との橋渡しプログラム (BRIDGE)
(2025 年度～、約 15,000 千円 x 3 年)
- ・共同利用・共同研究システム形成事業「学際領域展開ハブ形成プログラム」(申請中)
- ・建築学会との連携 日本建築学会 第 2 回情報ワークショップ (2025 年 9 月 9 日、IMI 後援)
- ・その他、組織連携型共同研究の調整案件
- ・マレーシア工科大学 (UTM) の学生が IMI 滞在 (2025 年 3 月 IMI 招へい、4 月～6 月は先方負担、Intan Diyana さん)
- ・マス・フォア・インダストリ研究所教員 (手老篤史准教授) がマレーシア工科大学 (UTM) 滞在、共同研究実施予定
- ・マハティール・マレーシア元元首を表敬訪問 (2025 年 8 月 6 日)
- ・Forum “Math-for-Industry” 2025(8/18(月)-20(水)開催) (Seoul, South Korea) の開催
- ・Malaysia – Japan Symposium on Mathematical and Statistical Modelling
(2025/08/26) の開催